

ほづみーと～meet(会う)～・オンライン

開 催 結 果 報 告

- 1 開催日時 令和7年8月21日（木）
午後7時から8時まで
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 市内在住・在学の中学生、高校生2名
- 4 テーマ 夏休み特別企画「Z世代に聞きたい、今の若者が思うこと」



5 主な対話の内容

No.1 高校生

【参加者】

高校 1 年の頃から、子ども会の行事や、小・中学生等への支援を行うボランティア団体に所属している。活動の中で、特に小学生と関わることが多いが、中学生のボランティアの機会が少ないと感じている。例えば、小学生でボランティアをしたいと思う子がいたとしても、中学校の 3 年間で空白期間になってしまう。ボランティアを通して、学べるがたくさんあるので、ボランティアの機会を増やせたら良い。中学生は、部活などがあるが、私も運動部に所属していた。土日忙しいのはわかるが、年に数回、イベントの時などでも参加できたら良いと思う。それを、学校がサポートしてほしい。そうすれば、イベントを知る機会もできるし、「ちょっと 1 回参加してみようかな」という人が増えると思う。

ボランティアは、人との関わりが多く、子どもとの接し方とかもちろん、役員さんなどともやり取りをするので、大人と子ども両方関わる。その架け橋になる存在が、所属しているボランティア団体。

所属しているのは、高校生なので、コミュニケーション能力や、仲間と協力すること、自分から動くとかいう力。人としての成長する力が、とても身につく場と感じている。

【市長】

太田市内の様々な場所で、土日を含め、いろんなイベント事業を行っている。そういった中で、ボランティア団体の活動というのは、非常に大きな役割を果たしていると思う。

中学生でも参加できるような環境づくりは、子どもたちにとっても学びになると思う。

また、そのイベントをやっている大人たちにとっても、子どもが参加してくれることで、地域の世代間のつながりなどに寄与するのではないかなと思う。今、ご近所付き合いなどが少なくなっている中で、地域に子どもたちや大人が、関われる機会というのを、ボランティア活動を通してできれば、一番理想的な形かもしれない。

どうしたら子どもたちに多く参加してもらえるか、しっかり考えたいと思う。

No.2 中学生

【参加者】

現在、太田市のプログラミング学校を修了した。前橋や桐生に「tsukurun」があるが、太田にもそのようなプログラミング学校を修了した後の、受け皿となる教室があると良い。今は、電車で前橋や桐生に通っているが、電車賃が高い。

また、プログラミングを主で活動できる部活がない。単に個人で活動しているより、部活として活動したほうが、自分の活動の証明として認められやすいのではないかなと思う。最近、

先生の働き方改革で、部活が廃止になったりもしていると聞いたが、プログラミング部は、鍵の開閉とエアコンを付けるだけなので、先生方の負担にならないと思う。プログラミングだけでなく、パソコンを使ってイラストを描いたり、音楽を作ったりもできると、人も集まるのではないかなと思う。

次に、選挙の投票率について、年々低下している。選挙に投票に行くことで、「OTACO」の抽選に参加できるなどがあれば、よいのではないかなと考えた。

さらに、セキュリティを強化して、オンラインでの投票を考えてみてもよいと思う。

【市長】

県議をしている頃、県が行っているデジタル人材育成の学校のようなところを整備する話題になったときに、県内のいろんな子たちが、ちゃんと参加できる環境整備をしてほしいということは、よく意見として挙げていた。県の中心部、いわゆるその高崎とか前橋ばかりに、そういう施設が増えていくと、東毛地区の子たちは、学ぶ機会がなくなってしまう。そのような課題があると思うので、電車賃がかかったり、通うにも時間もかかるし、大変だと私も認識している。高校生になっても学べるような場所が、太田市にも必要だと思う。しっかりと皆さんが、太田で学べるような、環境整備をしていきたいと思う。

また、選挙の投票に行った方に対しての特典などの取り組みは、特段行っていないが、他の自治体では、商店街で割引をしてくれるなどの特典もあるので、どうしたら投票率が上がるかを、考えていきたい。

インターネットを活用した投票を試験的に行っているところもあるので、これから研究しながら取り組んでいければと思っている。

参加者と市長のフリートーク

【参加者 1】

現在、放課後児童クラブでアルバイトをしているが、保護者から、もっと子育て世代にも目を向けてくれると嬉しいという意見を聞いた。一番身近な意見として、学童の定員がある中で、入れない児童をなくすと助かるということを聞いた。太田は子育てに良い市だと思っているので、率先して行ったらもっとすごいと思う。

【市長】

太田は、以前から子育てに力を入れてきている。学童だけでなく、学校内に「プラッツ」という教室もある。現在、保護者の方も働いている方が多いので、子どもを少しでも学童などで見てもらえる方がよいということは、よくわかる。

引き続き、学童環境や子どもたちの環境については、力を入れていきたい。

【参加者 2】

今度、プログラミングアワードのファイナルステージに出場する。高齢者の交通事故に関するアプリを作った。実勢に、過去の事故現場を元にした空間を実際に運転することで、危険箇所などを自分で気付くことができるという内容のもの。

【市長】

高齢者の事故は、ニュースなどでも耳にする。高齢になっても、長く運転される方もたくさんいらっしゃるし、どんな方でも自動車を運転していると、事故のリスクというのは、常につきまとう。開発したアプリが、社会の役に立つと思うので、期待している。

【市長】

今、太田市は、PR することに力を入れ始めているが、何か太田市を PR する、よいアイデアはあるか。お二人の考えを教えてほしい。

【参加者 1】

群馬県庁のインターンシップに参加したが、YouTube などの映像を使った宣伝がすごい。そういったものを見ると分かりやすく情報が得られるツールの 1 つだと思う。

太田市の LINE も登録しており、通知が来たら目を通すようにしている。「ほづみーと・オンライン」も LINE のお知らせ機能で知った。

【市長】

群馬県は、「tsulunots」という YouTube チャンネルで積極的に情報発信している。太田市も様々な方法で、少しでも Z 世代の方や、若い方にも届くような情報提供をしていきたいと思っている。

【参加者 2】

国土地理院で、いろんな場所の 3D データなどが配布されてる。それをうまく使って、太田市をメタバース空間上に再現して、いつでもどこでも参加できるものを作る。そこに、太田市の良いところなども表示するなど、インタラクティブなものを作れると、ゲーム感覚でも楽しめるし、太田市の魅力を再発見できると思う。

【市長】

なかなか直接太田に来れなくても、3D データによって、ある程度の雰囲気と、そこにある情報が、取得できる。

【参加者 2】

以前、新宿の 3D データを取り寄せて、実際に散歩できるようなものを作製したことがある。太田市のデータがあったら、チャレンジしてみたい。

【市長】

参加されたお二人が率直なお話をしてくれて、嬉しかった。また、市政運営に非常に参考になる内容であったので、それをもとに、できることから進めていきたいと思う。